

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
ES11A008		子どもを活かす学級経営の実践演習(Studies on Classroom Management for Empowering Students)					共通科目													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
必修	2	1	大学院教育学研究科	後期		氏名 今村裕, 古庄一夫, 牧英治郎 E-mail imamurayutak@oita-u.ac.jp, furusyo@oita-u.ac.jp, e-maki@oita-u.ac.jp, 内線														
授業の概要	本授業においては、子どもたちを活かす学級経営に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 学級における経営計画に関する実践的知識について深く理解する。																				
目標2 学級経営上の問題に関する実践的知識について深く理解する。																				
目標3 子どもたちを活かす学級経営の方法に関する実践的知識について深く理解する。																				
目標4 学級経営における現場の事例を題材として現状の課題を発見する。																				
目標5 学級経営における現場の事例を題材とした現状の課題について、具体的な対応策を立案・検討する。																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 授業テーマに関する学校の具体的課題の理解																				
2 学級経営の現状と課題に関する講義 - 学級経営の基本的な考え方について																				
3 学級経営の現状と課題に関する講義 - 学級経営に絡む教育課題について																				
4 学級経営上の問題に関する事例分析演習 - 教師 - 子ども関係に関する問題																				
5 学級経営上の問題に関する事例分析演習 - 学級組織, 規律の崩壊に至る事例																				
6 学級経営計画の立案に関する講義																				
7 学級経営計画の立案演習 - 目標の設定と具体的な手立ての構想																				
8 学級経営計画の立案演習 - 評価の観点の設定																				
9 学級経営の評価に関する講義																				
10 学級における個々の子ども理解に関する講義																				
11 子どもの個性を活かした学級経営事例の分析 - 発達段階に応じた学級づくり																				
12 子どもの個性を活かした学級経営事例の分析 - 個人差を踏まえた学級づくり																				
13 学級経営計画の改善に関する講義																				
14 個の育ちを踏まえた学級経営計画の改善																				
15 学習成果の発表と総括																				
ラ ブ ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	プレゼンテーション, グループディスカッション, KJ法, ロールプレイ					工 夫 そ の 他 の													
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前に提示された事例等について、関連資料を調べたり、自分の意見を整理したりする。																		
	事後学修	演習において討議したことを整理し、個人の視点を明確にするとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して、到達点を整理する。																		
教科書	特になし。授業中に指示する。																			
参考書	小学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説総則編 中学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説総則編 生徒指導提要(平成22年3月)																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取り組む姿勢、討論への参加など)	70%																		
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%																		
注意事項	本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教えを請うこと。																			
備考	現職院生が実践経験の中から子どもの問題行動や規範意識に関する事例等について紹介し、学部卒院生とともに議論し合うなど、アクティブラーニングの手法(思考ツールの活用・KJ法・四象限分類等)も取り入れ、現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし、教員も参画したチーム学修に取り組む。																			
リンク																				
	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	古庄 一夫：特別支援学校教員18年、県教委指導主事13年 牧 英治郎：小学校教員25年、県教委指導主事4年
実務経験を いかした教 育内容	学校の実態に応じた事例検討及びその対応・評価における課題の析出と対策の立案